

令和5年11月17日～11月23日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

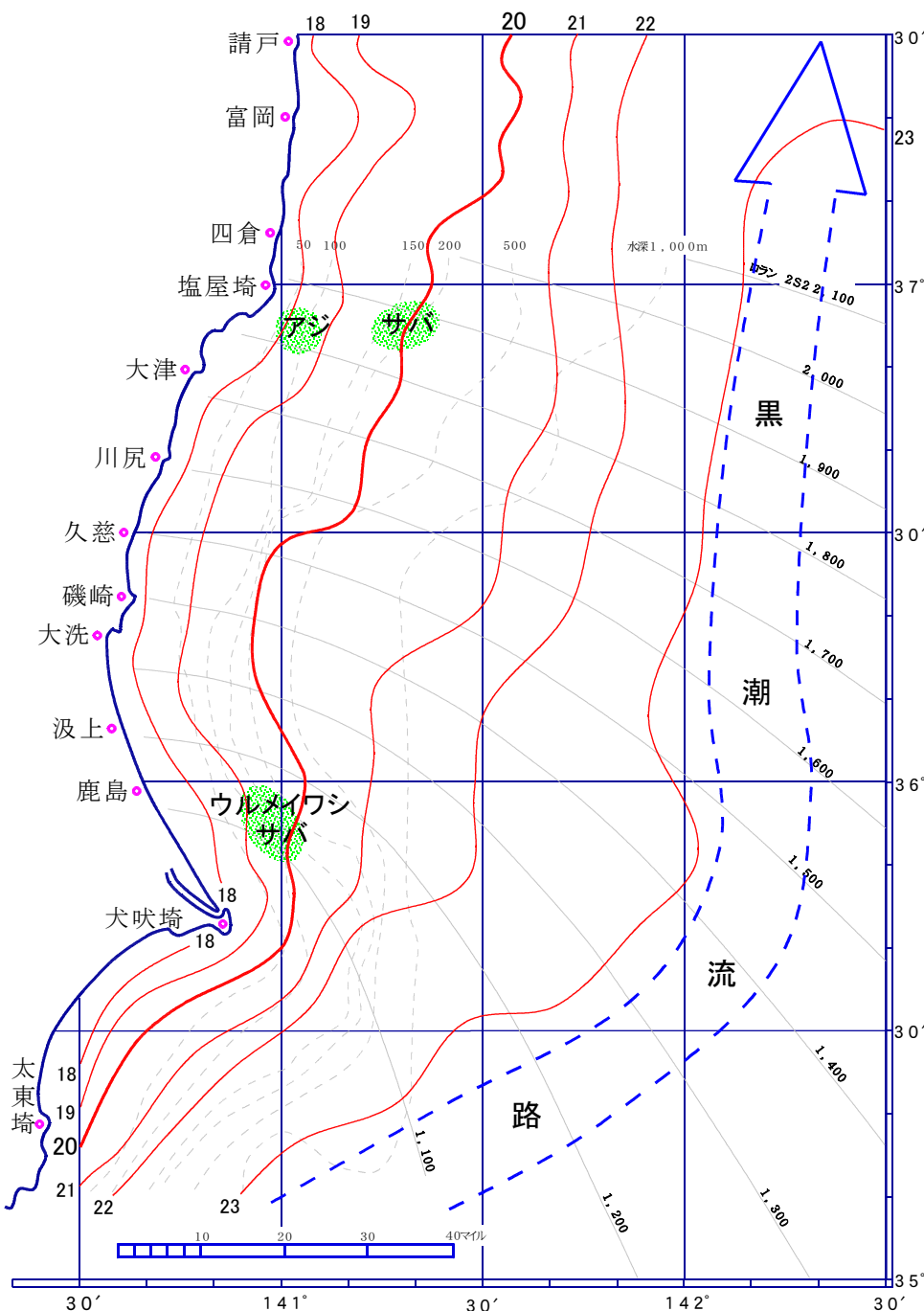
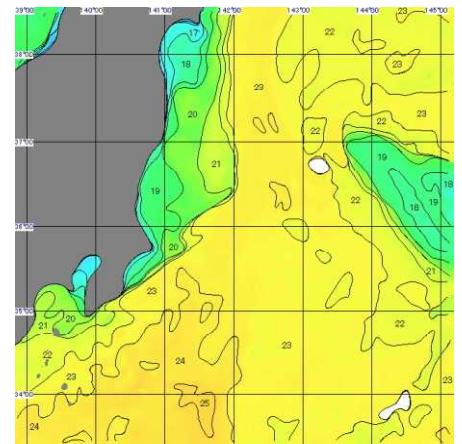
那珂湊定地水温 (°C)

日	令5	令4	平年
11/17	18.1	18.5	16.7
18	17.9	17.9	16.5
19	17.7	17.9	16.4
20	17.4	17.9	16.3
21	17.0	18.3	16.2
22	16.7	18.8	16.1
23	17.0	19.0	16.0
平均	17.4	18.3	16.3

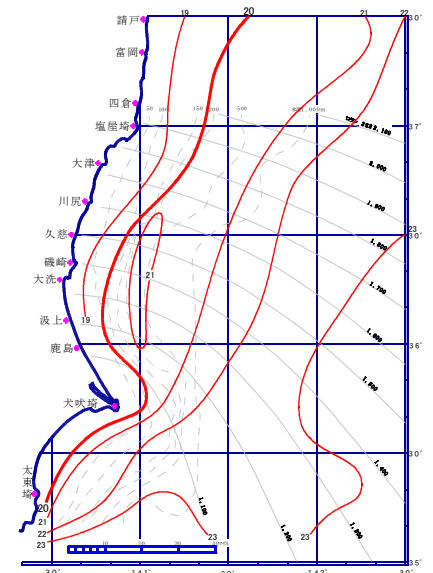
30年平均: 1991～2020年

令和5年11月17日～11月23日

【1週間合成衛星画像】



【海況図】



令和4年11月18日～11月24日

【海況図】

1. 黒潮は、犬吠埼の東南東30マイル付近を北北東に流れ、
37°30'N 142°20'E付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、17～20℃台の水温となっている。

漁況の特徴

属地、単位＝四捨五入

11/16～11/22

5 - No. 3 3

魚種	漁法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
シラス	船曳網	大洗町	194	1,129	218,973	4
ヒラメ	小底5t以上	平潟	46	993	45,759	
	"	那珂湊	39	993	39,123	
	その他釣り	平潟	148	2,287	337,339	
	"	川尻	189	1,811	341,870	
	"	久慈町	5	1,074	5,370	
	"	那珂湊	161	1,620	261,040	
	大型定置網	会瀬	84	1,605	135,442	
マコガレイ	小底5t以上	平潟	1	560	728	
	"	那珂湊	1	800	800	
タイ類	小底5t以上	平潟	552	352	194,319	
	"	那珂湊	54	618	33,260	
	その他釣り	平潟	33	711	23,318	
	"	川尻	7	799	5,670	
	大型定置網	会瀬	123	602	74,215	
スズキ	その他釣り	平潟	2	693	1,455	
	"	那珂湊	6	839	4,700	
	大型定置網	会瀬	11	933	10,637	
アナゴ	小底5t以上	平潟	510	666	339,800	
	"	川尻	8	700	5,320	
	"	久慈町	4	1,000	3,800	
	"	那珂湊	84	928	77,860	
アンコウ	小底5t以上	平潟	48	1,044	49,995	
	"	川尻	16	626	9,700	
	"	久慈町	8	776	6,050	
	"	那珂湊	14	1,171	16,040	
タラ類	小底5t以上	那珂湊	9	148	1,388	
ホウボウ	小底5t以上	平潟	83	829	68,804	
	"	那珂湊	19	785	14,845	
	大型定置網	会瀬	3	2,255	6,991	
フグ類	小底5t以上	平潟	11	4,590	51,408	
	延縄	久慈浜丸小	9	3,384	29,100	
	"	大洗町	71	3,607	256,470	
	その他釣り	久慈浜丸小	4	2,000	7,600	
	"	那珂湊	9	2,415	22,700	
サワラ	その他釣り	那珂湊	3	2,600	8,580	
スルメイカ	小底5t以上	平潟	40	390	15,600	
	"	川尻	62	566	34,800	
	"	久慈町	85	814	68,750	
	"	那珂湊	15	1,030	14,940	
ヤリイカ	小底5t以上	平潟	160	235	37,600	
	"	川尻	25	866	21,640	
	"	久慈町	291	941	273,300	
マダコ	小底5t以上	平潟	15	678	10,021	
	"	那珂湊	14	1,206	16,280	
	その他釣り	平潟	17	1,025	16,905	
	"	那珂湊	58	1,584	91,860	
	"	大洗町	3	2,000	6,000	
マアジ	小底5t以上	平潟	103	258	26,530	
	"	久慈町	9	500	4,650	
	"	那珂湊	64	262	16,785	
	その他釣り	川尻	127	94	11,870	
	大型定置網	会瀬	149	199	29,523	
サバ	小底5t以上	平潟	480	42	20,000	
	"	川尻	81	83	6,720	
	"	久慈町	56	400	22,400	
	"	那珂湊	5	295	1,444	
ブリ類	小底5t以上	平潟	3	367	1,174	
	その他釣り	"	3	267	800	
	"	久慈浜丸小	7	165	1,090	
	"	久慈町	12	138	1,644	
	"	那珂湊	24	591	14,305	
	"	大洗町	3	400	1,000	
	大型定置網	会瀬	504	445	224,377	
ウルメイワシ	大型定置網	会瀬	88	56	4,890	

◎

まき網

(漁獲は1投網当り)

サバ・・・八戸の北北東20マイル付近で40トン(1ヶ統)、岩手久慈の南東20マイル付近で1~10トン、宮古の東10マイル付近で1~35トン、女川の東15マイル付近で1~20トン、請戸の南東25マイル付近で1~25トン、塩屋崎の東南東15マイル付近で5~65トン、鹿島の東15マイルから犬吠崎の北東15マイル付近で1~20トンの漁獲。

アジ・・・塩屋崎の南南東5マイル付近で1トン(1ヶ統)の漁獲。

ウルメイワシ・鹿島の東15マイル付近で1トン(1ヶ統)の漁獲。

ワカシ・・・気仙沼の東北東10マイル付近で3トンの漁獲。

◎

小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大洗地先で7~104kgの漁獲。

カエリ・・・大津地先から矢指地先で25~575kgの漁獲。

◇曳釣り

平潟地先から大津地先でメジ5~25kg、平潟地先から高戸地先でヒラメ4~31kg、久慈浜地先から鹿島地先でヒラメ1~30kg、マゴチ1~3kg、スズキ2~5kg、イナダ1~3kg、マハタ1kg前後の漁獲。

◇樽流し

那珂湊地先でマダコ5~30kgの漁獲。

注 延隻数:銘柄別隻数

茨城県水産試験場漁業無線局

鹿島灘はまぐりの資源状況

鹿島灘はまぐり（以下、はまぐり）は大洗以南の本県沿岸漁業の重要対象種です。その資源量は、数年に一度おこる大規模な発生に支えられています。現在の資源は、H26年生まれ（以下、H26年級群）、H29年級群、及びR2年級群を主体として構成されています。

水産試験場では、はまぐりの資源状況を評価するため、漁業調査指導船「せんかい（4.9トン）」による採集調査を行っています。今年の調査は、大洗町から神栖市にかけて、約4km間隔で設定した17地先の距岸200～1,600mの範囲に設けた合計97の定点において、4～6月に実施しました。なお、今年の調査から、調査地点を1地先5定点（浜欠（40HL南））追加しました。各定点では調査用小型貝桁網（桁幅56cm、爪間隔24mm）を最大10分間曳網し、曳網面積当たりの分布密度を求め、鹿島灘におけるはまぐりの資源個体数及び資源重量を推定しました。

- 資源個体数・資源重量が増加 -

調査結果からR5年の推定資源量は、資源個体数が5,249万個、資源重量が5,024トンでした（図1）。殻長組成に注目すると、殻長85mm前後のH26年級群、殻長70～80mm前後のH29・30・31年級群、殻長62mm前後のR2年級群が主体となっていました（図2）。

次に、地先ごとの平均分布密度に注目すると、H26・29年級群が主体となる殻長70mm以上のはまぐりは、大洗町北部保護水面、鹿嶋市荒野、平井及び神栖市波崎といった地点に高密度に分布していました。R2年級群が主体となる殻長70mm未満のはまぐりも、同様の地点で高密度に分布する傾向がみられましたが、特に今年度から調査地点に追加した、大洗町浜欠（40HL南）で高密度に分布していました（図3）。

調査点数を変更したため単純比較は出来ませんが、R5年の推定資源量を前年（R4）の推定資源量（資源個体数3,107万個、資源重量3,211トン）と比較した結果、個体数、重量ともに増加していました。資源が増加した理由としては、R2年級群が漁場に加入したことが考えられます。

今後のはまぐり資源の利用については、R2年級群が主体になっていくと考えられます。しかし、加入直後のR2年級群を大量に漁獲してしまうと、増加した資源が、再度減少に転じる可能性があります。持続的な資源利用をしていくため、計画的な漁獲を継続していく必要があります。

（定着性資源部 関根 和輝）

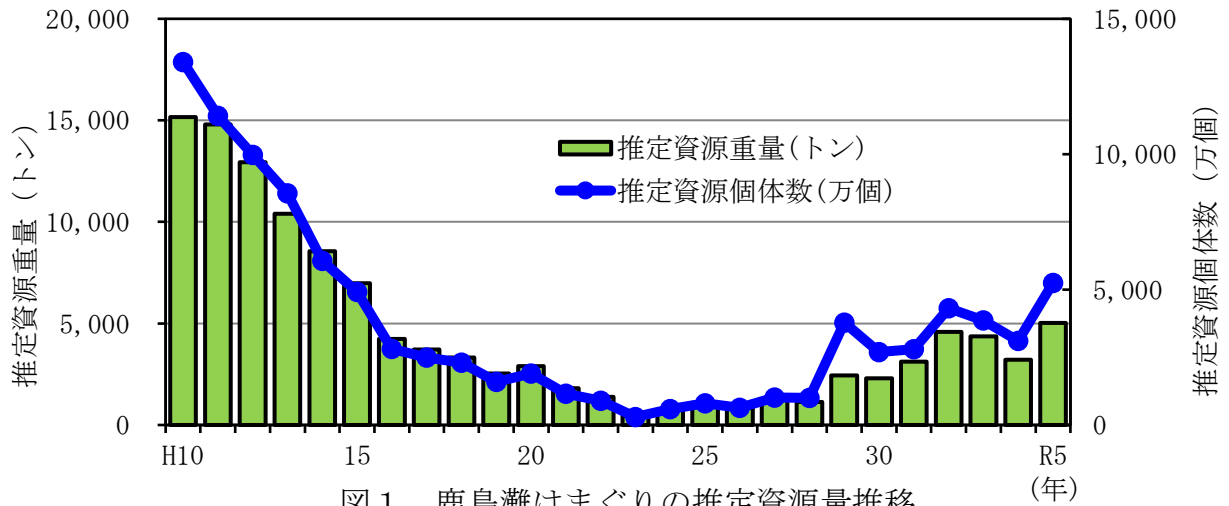


図1 鹿島灘はまぐりの推定資源量推移

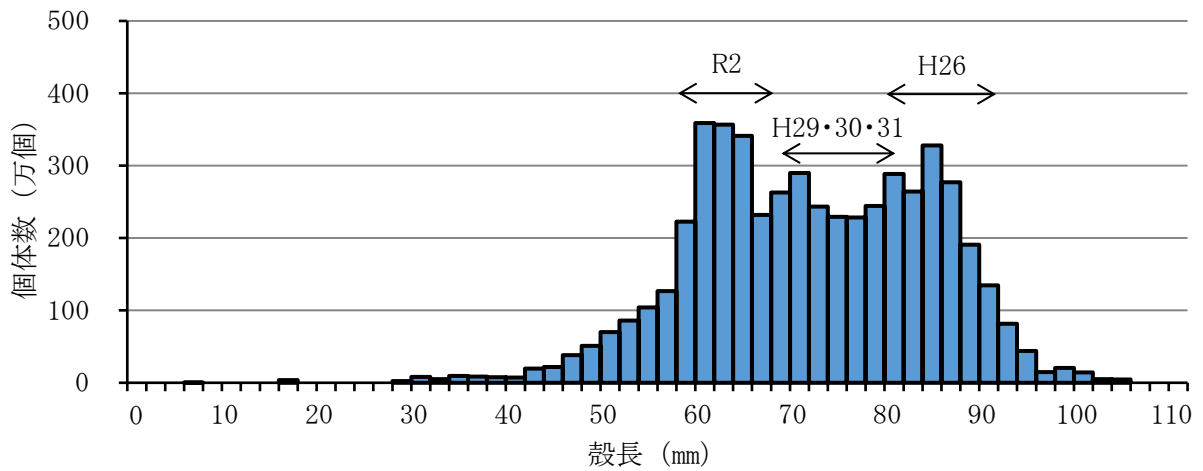


図2 鹿島灘はまぐりの殻長組成

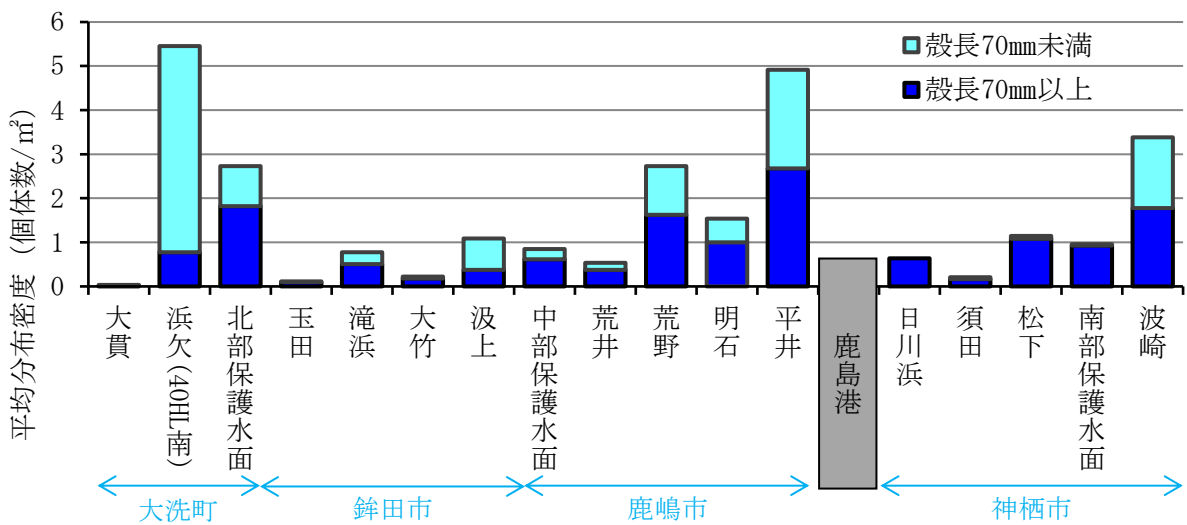


図3 鹿島灘はまぐりの地先ごとの平均分布密度

茨城県で漁獲されるイセエビについて

1 茨城県におけるイセエビ漁獲量の推移

近年、茨城県ではイセエビの漁獲量が急増しています（図1）。平成初年台には数トンとごくわずかで、平成30年までは20トン以下となっていました。その後、令和1～3年にかけて大きく増加し、令和3～5年の漁獲量は40トンを超えています（令和5年は一部未集計のため、速報値）。

本県では、イセエビは主に固定式刺網（建網）で漁獲されています。固定式刺網とは、海中にナイロン等でできた漁網を設置し、夜行性のイセエビが移動するときに見えない漁網に絡まったものを漁獲するという漁法です。このほか、素潜りなどによっても漁獲されています。

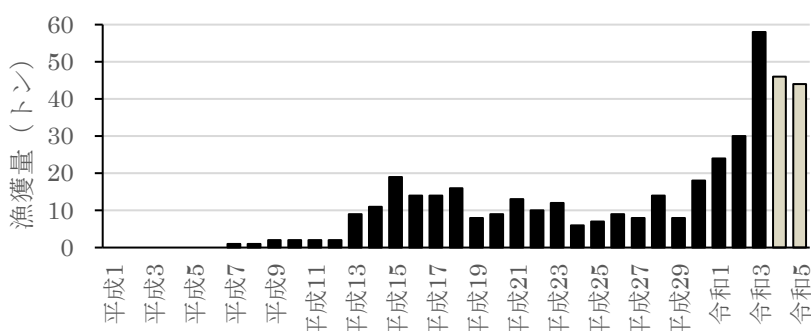


図1 茨城県におけるイセエビ漁獲量（属人）
出典：R3までは海面漁業生産統計調査（農林水産省）
R4,5は水産試験場漁獲情報収集管理システム（R5は一部未集計）

2 茨城県で漁獲されるイセエビの特徴

水産試験場では、急増するイセエビの基礎的な生態情報を収集するため、今年度から市場調査を開始しました。市場調査では、ノギスを使ってイセエビの大きさ（頭胸甲長：目の後ろから頭胸甲の後端までの長さ）の測定のほか、腹肢の特徴などからオスメスを判別し、メスについては抱卵の有無・成熟状況を調べました。

頭胸甲長を測定した結果、本県で漁獲されるイセエビはオスメスともに80mm前後にモードがあり（図2）、体重に換算するとおよそ500gであることが分かりました。これは、公表されている他の産地（三重県や千葉県など）のイセエビの大きさ（200～300g 主体）と比べると大きいという特徴が見られました。

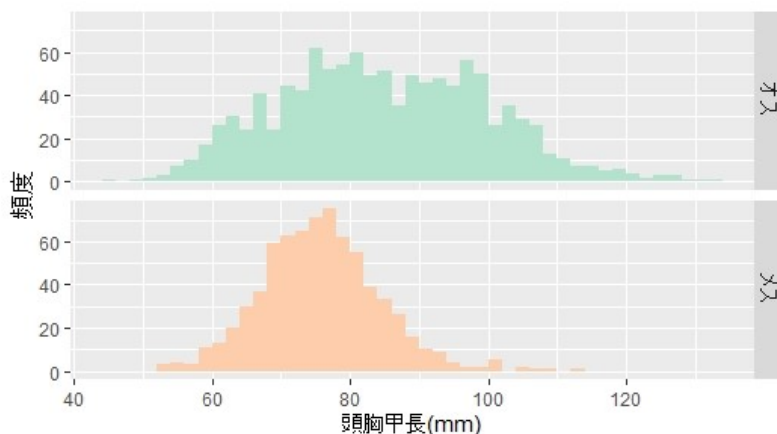


図2 茨城県で水揚げされたイセエビの頭胸甲長組成

また、6～9月のメスの成熟状況を調べたところ、6月には卵を持っているメスが確認されましたが、全て未発眼卵でした（図3）。7月（那珂湊定置平均水温：22.9℃）に入ると発眼卵を持つ個体の割合が増え、8月には産卵後の個体の割合が増加し、9月に入ると再び発眼卵を持つ個体の割合が増加しました。ここから、本県でのイセエビの産卵期は7～9月ごろと推定されました。

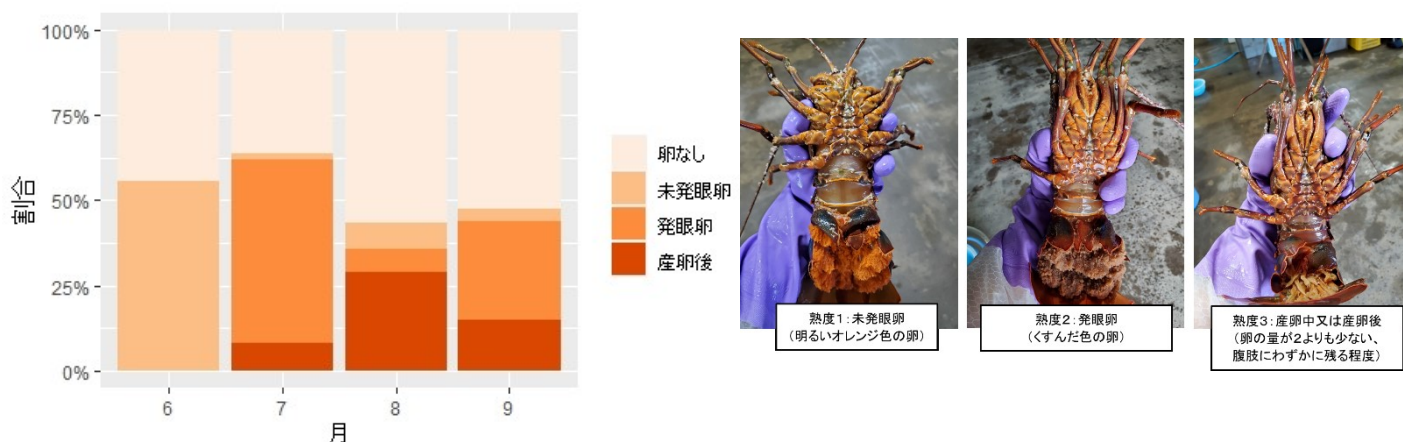


図3 イセエビのメスの成熟状況（左）と成熟度の判定基準（右）

3 イセエビ資源管理に向けた取組

今回の調査により、本県で漁獲されるイセエビはサイズが大きいこと、産卵期は7～9月ごろであることが明らかになりました。本県におけるイセエビ漁獲量が増加している理由は明らかになっていませんが、イセエビ資源の適切な利用に向けて、水産試験場では引き続きデータの収集を進め、本県のイセエビ資源状況の把握に努めていきます。

なお、すでに漁業者の自主的な取組として、抱卵メスの一時的な畜養が行われています。これは、抱卵したメスを産卵が終わるまで海面に設置したいけすやカゴ（図4）に入れておくことで、卵を自然に返す取組です。イセエビの卵や浮遊幼生は、黒潮に乗って沖合域で約1年間浮遊生活を送った後、日本沿岸に着底することが知られています。本県で産卵された卵が黒潮域まで到達するかはわかりませんが、そのまま水揚げしてしまうよりは資源にとってプラスになりますし、歩留まりの向上により販売単価が上がるとの声もあります。水産試験場で抱卵メスを畜養したところ、発眼卵であれば1週間程度で卵がなくなることを確認しています。抱卵メスは脱皮することはない、一時的な畜養であれば無給餌で問題ありませんので、可能な範囲で畜養後の出荷を推奨します。



図4 一時畜養で使用されるカゴ
（カゴサイズの目安：約100×100×80cm
収容尾数：50尾程度）

最後になりましたが、今年度から市場調査を開始するにあたり、各沿海漁協、漁業者の皆さまには大変お世話になりました。来年以降も引き続き調査を行う予定ですので、測定等にご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。

（定着性資源部 多賀）

【次回予告】令和5年12月1日発行の水産の窓は「今季のマダコ漁の予測」を予定しています。